



## 砂本 令子 (光市)

すなもと れいこ

すーちゃんちのたまごらんど  
経営者

### プロフィール

埼玉県で生まれ、結婚を機に夫の故郷、光市に住む事になりました。夫の実家が養鶏場を経営しており、当初は、夫が養鶏場に勤務している子育て中の普通の主婦のつもりでした。

我が家家の養鶏場は、ゲージで1羽1羽分けられた鶏舎とは違い、自由に動ける平飼いという方式で、有精卵を生産しています。インフルエンザの予防接種のワクチンを作るためのものでした。義父は、厚生省のお役に立っているという自負のもと、小さいながら会社組織にしておりました。

しかし、平成4年、地元の製薬会社がワクチンの製造を止めたため、10万羽いた鶏を徐々に減らし、自分たちで販売出来る数に減らしていました。

平成8年に直販所「すーちゃんちのたまごらんど」をオープンしました。食べる人と、作る人の顔の見える関係をとても大切に思っています。目印にお店の屋根には小さな風見鶏がたっています。

たまごだけではなく、プリン、パン、オムライス等の食品も販売しており、お母さんが子供に食べさせたいと思う商品作りにこだわっています。

### 起業のきっかけ、経緯

昭和60年、地元KRYのラジオ番組で朝市を開く事になり、要請を受け、養鶏場で一番忙しくない私が出店する事になりました。一度だけと軽い気持ちで引き受けたのです。ところが評判が良く、14～5年間続いた朝市に、毎週出店し続けました。その際、消費者との直接のふれ合いで、商売を一から教わり、色々な繋がりも生まれました。小売をしていましたので、たまごを詰めるパックもなく、持ち帰り用の袋もありませんでした。初めて「パンフレット」を作り、たまごの特徴を記しました。

うちのたまごの良さをより多くの方に知っていただきたいと思うようになりました。

「すーちゃんちのたまごらんど」の商品は、99%私どもで作ったものです。平成24年頃からは米も作り、鶏の餌にも使っております。米の餌だけで育った鶏のたまごは、黄味の色が白く、味も評判です。

オムライスに使っている鶏肉はたまごを産まなくなった鶏のものです。命をすべて頂くという事を大切に考えています。

### 男女の差を意識されたこと、苦労、嬉しかったこと

私の知っている男性は素敵な人ばかりで、私の事を良く理解して頂いているので、差別とか感じた事はありません。夫は研究一筋、私を表に出そうとする人で、差別を受けたという思い

はありません。

世の中、必ずトップが男性というのはおかしいと思いますが、女性側も向上心を持つ事が大切です。重い責任は取りたくないという考え方の女性も多くいます。人間として、取るべき責任には男女問わず、きちんと対処して行かなければならないと思います。

### 今後力を入れていきたいこと

「すーちゃんちのたまごらんど」だけでなくたまごを使った製品を広く販売していきたい、そして沢山の人に砂本養鶏の安心、安全なたまごを知って、健康作りに役に立てていただきたいと思っています。

今、いつでもおいしい卵焼きができるように「たまご焼き用だししょうゆ」を開発しました。たまごの消費拡大と共にこれから将来ある子供達に食べさせたいものを提案していきたいと思っています。

### 後に続く女性へのメッセージ

男、女という事ではなく、人間として自分の信じる道をぶれずに進んでいって欲しいと思います。そこで道は開けていくと考えます。「夢見る夢子さん」で良いのです。強い心と意欲を持って進んで行きましょう。



卵もダチョウだとこんなに大きい



## 原田 智江 (周南市)

はらだ ともえ

母と子のふわふわサロン縁～en～  
開業助産師

### プロフィール

母に勧められ、看護の関係の高校に進学。看護師となり、その後助産師の資格を取得しました。総合病院、開業医、保健センターで勤務助産師を13年経験しましたが、3人の子供の育児のために退職しました。時間的に自由に他のママのお手伝いがしたく、3年前、平成24年に助産師として開業しました。

たくさんのメニューを取り揃え、育児を楽しめるハッピーな家族を作るお手伝いをしたいと思っています。例えば、

- ・わらべうたベビーマッサージ&キッズマッサージ
- ・女子力UP！おっぱい体験
- ・育児力UP！産後リラクゼーション
- ・お産が楽しみになる！プレママ、プレパパ教室

など活動としては、女性の一生、特に妊娠、出産、育児をサポートし、幸せなママを一人でも増やすようお手伝いをしています。

### 起業・活動のきっかけ、経緯

3人目の子供の妊娠をきっかけに勤務助産師を退職しましたが、助産師の仕事が好きで、自分の子育てを楽しみながらも何か役に立つことができるのではないかと模索していました。

病院、保健センターに勤務していた時、また、核家族化の中で、本やインターネットなど様々な情報が氾濫する中、相談者もなく悩んでいるたくさんの妊婦さんや母子と出会い、妊娠中、産後の身体のセルフケアや育児支援の重要性を痛感し、地域での密着した活動の必要性を感じました。

自分の第3子出産の時、奥田朱美先生の「わらべうたベビーマッサージ」に出会い、身体と心のリラクゼーションが心地よく、是非これを広めたいと思いました。

「あなたのかかりつけ助産師」を目指し、「母と子のふわふわサロン縁」を立ち上げました。

### 男女の差を意識されたこと、苦労、嬉しかったこと

私の仕事で、男女の差を意識したことはありません。家族の協力をありがたく思っています。妊娠、出産、育児を通して一人ひとりと信頼関係を築き、健康で楽しく生き生きしたママを見る事がとても嬉しく、仕事の励みになっています。

ママの幸せが、赤ちゃんや家族の幸せに繋がると思っていますので、同性として苦労や痛みに共感しながら、それぞれが必要とされるきめ細かいケア、アドバイスが出来たら嬉しいと思っています。

### 今後力を入れていきたいこと

5～60年前は当たり前だった地域に存在する助産師も、現在、病院、クリニックでの出産が普通になっており、「開業助産師」の知名度は低くなっています。

多くの悩めるママに、困った時に何でも相談出来る「開業助産師」がいるということを知つて欲しいと思います。

また、ママと赤ちゃんの育児が楽しく楽に出来る様な支援が出来るコミュニティ作りをしたいと思っています。

ママだけでなく、整体、アーユルヴェーダ（インドの伝統的医学。心と身体、環境の調和が健康に重要という考え方）、食事、生活をトータルに調整し、女性の健康な身体作りをしたいと思っています。

### 後に続く女性へのメッセージ

先ず、自分が楽しむ事。今までの経験は必ず全て役に立つ事なので、色々チャレンジして欲しいと思います。

きちんと計画を立てるという事ではなく、先ずはやって見ようではありませんか。



お産が楽しみになるプレママ教室などで使う、新生児モデル人形と



「母と子のふわふわサロン縁」での楽しい集い



## 古河 和子 (防府市)

ふるかわ かずこ

ひろ不動産 代表  
山口県宅建協会防府支部 理事

### プロフィール

短大卒業後保育士として働き始めました。23歳で結婚。24歳で長男を出産。父が新幹線を作っていた会社を定年退職後に不動産屋を駅前に開業しました。30歳から母と2人で手伝うようになり、その時に母は宅建の資格を持っていました。次男、三男の出産と子育てをしながら家庭と仕事の両立に苦しみながら働きましたが、父の会社は順調に成長していました。

40歳で独学で宅地建物取引責任者の資格を取得し、41歳で宅地建物取引業の免許を取得して自宅で起業しました。一人で開業したので大変でしたが、父の会社を11年間手伝った経験が役立ちました。

富士火災代理店経営、リフォームスタイリスト、古民家鑑定士1級の資格を取り、事業の3本柱として企業活動をしています。

### 起業のきっかけ、経緯

経営について学びたいと思っていましたので、山口商工会議所主催の「起業塾」を受講しました。約3ヶ月半通いながら社会にとって私が何ができるか考えさせられました。

日本政策金融公庫に経営計画書を提出し、事業資金の融資を申し込みました。300万円申し込んだのですが、宅建業の免許を取得する費用も融資できることになり500万円の融資を受けて起業しました。三人の息子達と一緒にヒーローを目指して、安く良い家を提供する不動産屋になろうと決心しました。

### 男女の差を意識されたこと、苦労、嬉しかったこと

人にやさしく、お客様には良くする、女の私が社会人として貢献できることはやっていきたいと思います。

起業にあたっては、名前が必要ですから、候補をいろいろ考えて、ヒーローにちなんで「ひろ不動産」にしました。ひらがなで分かりやすい短い名前にしました。

起業の意気込みとはうらはらに、仕事も少なかったので何でもしました。宅建資格取得講座の講師、宅建協会の理事、次男のスポーツ少年団の会長など、収入は少なく生活は大変でしたが、これらの経験と人との出会いが今でも繋がっています。いろいろな意見を聞き、我慢ができるようになりました、調整能力が育ったと思います。人からの評価も変わってきました。

5年たった今では、「ひろ不動産に頼んでよかった」「ひろ不動産に会えてよかった」とお客様に言っていただけることも多くなってきました。そのような時には会社を興してよかったです。

人との繋がりも広がり、例えば女性の社長さん達からは、女性ならではの経営戦略や女性らしいふるまいを学ばせてもらっています。また一般的な不動産業務に加えて、古民家に関する相談を受けたりして、業務活動の幅も広がり、今では仕事にやりがいと楽しさを感じています。

### 今後力を入れていきたいこと

お客様へご紹介した中古住宅や古民家を素敵にデザインリフォームする提案・施工のお手伝いをしていきたいと思います。

私はお客様へより良い不動産をご紹介したくて、勉強していくうちに日本の伝統的建物である古民家に出会いました。それまでの私は、古い建物は壊して、機能的で住みやすい新しい家がいいと思っていた。しかし今では、家の愛着を持って住み継がれてきた「木」のぬくもり、力強さを感じる古民家を次の世代へ住み継ぐことの大切さを感じています。

質の良いものをきちんと手入れをして長く大切に使い、次世代へ繋いでいくリノベーションや古民家再生の価値を伝えながら、住まいの紹介から住まうまでを一貫してサポートしたいと思います。

### 後に続く女性へのメッセージ

起業することに興味のある方は、今の仕事をしながら、家事育児をしながらでもいいので、興味のあることで資格を取ったり、セミナーで勉強したり、自分自身を磨きながら、専門的な知識を突き詰めて勉強し技術経験を積み重ねていくことが良いと思います。それらの知識、経験が自信となり、他の人とは違う貴方になります。そして必要とされる人になれるでしょう。

人のお役に立てた時に、初めて会社に利益が入ってくるでしょう。現状は苦しく、困難な状況にあって、時間がかかったとしても、楽しみながら資格をとることをお勧めします。



古民家のデザインリフォームの提案・施工にも力を入れたい



## 森本 節子 (山口市)

もりもと せつこ

福祉生活協同組合さんコープ  
理事長

### プロフィール

子供のアトピー発症を機に、有機農法や朝市活動、環境問題に関心を寄せるようになり「copeやまぐち」の活動に参加。昭和63年から「生活協同組合copeやまぐち」の理事となり、平成3年から「山口県消費者団体連絡協議会」事務局長に就任。

平成11年copeやまぐち内の「高齢者生協」が介護保険事業参入を目指し、法人化。「福祉生活協同組合さんコープ」の名称で設立され、平成18年から理事長に就任。

### 主な業務の内容

事業としては、ケアマネジャー・ヘルパー・デイサービスの介護保険収入を基盤に有料老人ホーム・助け合いサービスとしての庭木の剪定・草とりなどの家事サービス・保育サポートなどを行っています。組合員・福祉グループ・大学生・地域の方などのボランティア活動も積極的に受け入れて活動を進めています。

平成26年度copeやまぐちとの事業提携で、サービス付き高齢者住宅を中心とした複合型福祉施設を湯田温泉街に建設中です。

### 起業・活動のきっかけ、経緯

さんコープはcopeやまぐちを母体とした任意団体と位置づけ、高齢者の生活と自立を支援する「共助」の組織として福祉活動・事業を推進しています。

設立時から、copeやまぐちの諸先輩方と一緒に理事として関わりました。初めは、経験の少ない介護現場で、夢や理想が先行し、様々な意見の対立も生まれ、利用者も増えないこともあり、専門の介護職の方たちが去られた時期もありました。

その時期に股関節が悪くなり左足人工関節置換術を受け、心労もあり、退職を決意しましたが、人手も無く辞められる状況ではなかったので職場に復帰しました。

平成14年、サービス提供責任者が必須になり、ヘルパー1級を取得し、現場の第一線で仕事をしていく中で、必要なこと、大事なことが見えてきました。困っている人を支援するということでなく、自立支援が尊厳を守る基本だと言うこと、悩む時は自分が介護してもらう立場で考えることにしました。

現在、組合員3,200名・出資金2千万・年間事業高3億円・職員50名・ヘルパー50名・助け合いサービス員100名。山口市、防府市、宇部市で11事業所。事業高も理事長就任時の4倍以上に拡大しました。

### 男女の差を意識されたこと、苦労、嬉しかったこと

生協活動で組合員活動をしているのは専業主婦が多く、私もそうでした。様々な場所で男女

共同参画を学ぶに付け、意見はしっかり言っているつもりでしたが、実際の運営はすべて男性に任せていたことに気づきました。県消費者団体連絡協議会では、他の県ではありえないと言われた、婦人会、copeやまぐち、農協、漁協、生活学校、新婦人などの各種女性団体の代表の方たちが集まり、意見が違う中で、まとめていく事を学びました。

市川房枝さんの秘書をしていた岡野敏子さんの下で女性の働き方、考え方についてかなり鍛えられたつもりでしたが、介護事業を行う中で、家庭を持っている女性の多くは、責任の重い仕事はやりたくない、子供の教育費や自分の趣味に使える金額があればいいとの考えで働く。困った人を少しだけ自分の都合のよい時に助けてあげたい、と言う意識で仕事をするのが普通だと知りました。

自分も含めて、責任を持って働く、自立を目指して働く、組織の運営を考える、これを基本に人を育てなくてはと思いました。プロ意識を育てるため、職員だけでなく、登録ヘルパーにも介護福祉士の資格取得学習、年2回の研修レポート、個別の研修目標など計画的に学習が出来る仕組みを創りました。成果は確実に現われ、さんコープが、介護の業界で評価され、認めもらえる存在となりました。介護の仕事をする中で、男女共同参画の大切さ、女性の自立について少し自信を持って話せるようになりました。

### 今後力を入れていきたいこと

高齢者家庭では、男性の介護が30%を超えていてもかかわらず、夫を看取り、その後、妻は施設へと考えておられる方が多い。

介護の現場で働く人は、女性が多く、女性の仕事とされていた家事や介護が仕事です。従って、社会的評価も低く、賃金も安い。働く人も自立出来る職業と捉えておらず、ボランティア活動の延長で考えています。だから、税金や社会保険料などを払う程働かない方が多く、募集をしても常勤よりパートの方に人が集まります。103万・130万の壁もあります。

高齢になった時に、女性の経済的自立、男性の生活能力がいかに大事か、介護の現場でつくづく感じています。だから若い頃から共同参画の取組が必要と言えます。

### 後に続く女性へのメッセージ

介護業界を経済的に自立できる職場にしていくには、まだまだ時間がかかると思います。恵まれた環境で育った若い人たちは介護現場を敬遠しがちです。介護の仕事は、高齢者の面倒を見るということだけでなく、人生を学ぶ事が多く、喜びや達成感を働きがいにしていける仕事です。若い人と一緒に、介護業界を、男女の格差の無い、働きがいのある、自立出来る雇用の場にしていきたいと思います。



## 「女性の活躍推進事業」概要

### 取材（インタビュー）者名簿一覧

(NPO 法人やまぐち男女共同参画会議)

相 本 艶 子 (山 口 市)

岩 谷 邦 子 (柳 井 市)

折 井 汲 子 (宇 部 市)

藏 重 康 子 (宇 部 市)

重 本 保 恵 (柳 井 市)

隅 麗 子 (周 南 市)

瀧 野 房 子 (萩 市)

西 村 梨美子 (山陽小野田市)

林 幸 子 (下 関 市)

林 節 子 (光 市)

廣 政 恵美子 (防 府 市)

平 田 信 子 (岩 国 市)

藤 本 ケイ子 (山 口 市)

堀 江 新 子 (防 府 市)

益 田 徳 子 (山 口 市)

吉 武 智 子 (宇 部 市)

(五十音順)

### 趣 旨

人口減少、少子高齢化、経済のグローバル化など急速な環境変化を踏まえて社会の活性化を図るために、女性の活躍の推進は重要な課題であることから、多様な分野における女性の活躍を推進するため、男女共同参画推進に関する事業者の実態調査を実施し、事業所におけるロールモデルとなる女性を取り扱い、広く情報発信します。

### 実施主体

公益財団法人山口きらめき財団

### 連携協働機関

山口県立大学、山口県男女共同参画課

### 内 容

#### ① 事業者実態調査（平成26年5月～8月）

- 調査項目
  - I 事業者の概要
  - II 女性の能力活用（ポジティブ・アクション）について
  - III ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
  - IV 仕事と家庭が両立できる職場づくりについて
  - V その他
- 調査対象 「やまぐち男女共同参画推進事業者」（山口県認証）365事業者
- 回収状況 189事業者から回答（回答率51.8%）

#### ② 事業所訪問・取材（平成26年8月）

- 取材先 調査結果に基づく好事例の事業所・ロールモデル7人
- 訪問者 山口県立大学看護栄養学部看護学科の学生4人、指導教官、財団職員が1組3～4人で訪問

#### ③ パネルディスカッション（平成27年2月）

- 講話「女性の活躍の推進のために」  
講師 田中マキ子氏／山口県立大学看護栄養学部教授
- パネルディスカッション「輝く女性から学ぶ生き方」  
コーディネーター 田中マキ子氏  
パネリスト [梅光学院大学会場] 横山弘子氏・田中富士子氏  
[山口県立大学会場] 弘田裕子氏・平田智子氏

#### ④ 情報発信（平成27年3月～）

- 報告書発行、財団ホームページ掲載